

1. 案件の概要

(1) 案件名

(和文) モザンビーク国別研修「教員養成校における現職教員教授法改善」

(英文) Improving teaching methodology of IFPs

(2) 研修期間

平成 30 年 5 月 28 日～平成 30 年 6 月 15 日

(全体受け入れ期間：平成 30 年 5 月 23 日～平成 30 年 6 月 16 日)

(3) 研修員数 8 人

(4) 国立大学法人 鳴門教育大学 研修コースリーダー 香西 武

2. 研修内容

案件目標：

数学・理科教育関連 IFP 教材の全国普及促進に向けて、普及に必要な知識・技術への理解を深める。

数学・理科教育関連 IFP 教材としてのビデオ教材を作成し、その利用方法についての理解を深める。

成果：

- 1) 全国普及のために、数学・理科教育関連 IFP 教材の内容及び授業での活用方法を説明できるようになる。
- 2) IFP での授業課題を検討し、効果的な授業のための教材の作成方法が理解できるようになる。
- 3) 児童中心型の授業について、その構成要素と指導方法が明確になる。
- 4) 附属小学校の役割を理解し、IFP と附属小学校の連携への手順を説明できるようになる。

成果品：

- A. 算数科・理科モデル授業案
- B. 算数科・理科研修用モデル授業ビデオ教材
- C. 実験室演習用実験ビデオ教材
- D. 演習室実験用実験手順書案
- E. 附属小学校と IFP の連携方策案

3. 案件目標(アウトカム)と成果(アウトプット)の達成度

(1)案件目標(アウトカム)

案件目標:

数学・理科教育関連 IFP 教材の全国普及促進に向けて、普及に必要な知識・技術への理解を深める。数学・理科教育関連 IFP 教材としてのビデオ教材を作成し、その利用方法についての理解を深める。

指標:

研修員が本邦研修終了時に作成するアクションプランおよびビデオ教材が、活動可能で教育改善に寄与するレベルに達成しているか確認される。

(2) 単元目標(成果)

単元目標①:

全国普及のために、数学・理科教育関連 IFP 教材の内容及び授業での活用方法を説明できるようになる。

指標:

数学・研修員が理科教育関連 IFP 教材に基づき作成した模擬授業計画, ビデオ教材およびその活用に関するアクションプランの記述から評価した。

単元目標②:

IFP での授業課題を検討し, 効果的な授業のための教材の作成方法が理解できるようになる。

指標:

研修員が日本の理数科授業ビデオおよび小学校現場での授業観察及び研修員による授業実施後に授業に関する意見を整理し, その記述が4段階評価の B(やや優れている)以上であること。

単元目標③:

児童中心型の授業について, その構成要素と指導方法が明確になる。

指標:

研修員が研修中に作成した模擬授業計画, 授業内容に対する評価が4段階評価で B(やや優れている)以上であること。

単元目標④:

附属小学校の役割を理解し, IFPと附属小学校の連携への手順を説明できるようになる。

指標:

アクションプランにおける IFP と附属小学校の連携活動の評価が4段階評価で B(やや優れている)以上であること。